

令和7年度 大阪府立障がい者自立センター 地域連携推進会議 議事録

・日 時 令和7年8月22日(金曜日)午後3時00分～午後5時00分

・場 所 大阪府立障がい者自立センター 大会議室

・出席者: 地域活動協議会長 小学校長 利用者 利用者家族

当センター所長・次長・参事(医師)・課長・生活支援員2名 計 10名

1 開会・挨拶

障がい者自立センター所長より本会議の趣旨と重要性について説明を行う。

2 自己紹介

出席者全員による自己紹介

3 障がい者自立センターの紹介

- ・当センター紹介動画を上映し、施設概要について説明
- ・施設内を案内し、居室・食堂・浴室・日中活動場所等の見学実施

4 利用者の支援状況報告

(1)ヒヤリハット、事故報告

- ・ヒヤリハットについての説明と集約の目的と効果について説明
- ・昨年度の報告件数と主な対応策を報告

(2)退所者アフターフォロー紹介

- ・資料(ホームページ掲載)に基づき退所者アンケートの調査結果報告
- ・今後もアンケートの回収率を維持し、意見を職員間で共有、支援の質と利用者の満足度の向上に努めていく

5 参加者からの意見、質疑応答

- ・家族:利用中の本人の意識があまり高くない。やる気がでないのは障がいが一因であると思うがプログラムに本気で取り組んで欲しい。時折季節の移り変わりを感じる機会として屋外で日課や行事を実施してもらいたい。
- ・利用者:最初は自ら前向きに取り組むことに気づけなかったが、リハビリに励んでいる他の利用者から影響をうけた。食事面について塩分制限があるのはつらい。薄味に慣れてきたが、退所後継続出来るか不安。
シーツ交換をここにきて自分でやるようになった。回を重ねているうちにできるようになった。
- ・地域活動協議会長:ヒヤリハットが共有されているのは安心につながる。
心強い。退所時のアンケートについて、結果をどのように生かしているのか？取り組み内容に変化は？
→自立センター職員:それらも踏まえて来年度から新しいプログラムを実施する。利用者の成長がわかるものにしていきたい。
- ・校長:改善しているところが素晴らしい。退所者アンケートの不満は訓練を「もっとしたかった」という前向きなものと感じた。入所時はできなかったことができるようになったという声にあらためて毎日の積み重ねが大事だと感じた。
- ・自立センター職員:利用者に質問。支援・生活環境についてどう感じているか？
→利用者:丁寧に対応してもらっている。集団生活のストレスはあるが集団生活だからこそそのメリットもある。他の利用者を見ていて刺激にはなる。また、食事の改善はできないのか？
→自立センター職員:現在の食生活を退所後も続けられるかどうか大切に。メニューについては毎月給食会議を行い、栄養士と共有しつつ、可能な範囲でできることを考えながら対応している。食事に関する意見は職員間で共有し参考にしていく。

→自立センター職員：生活改善を心がけてほしい。治療食は薬と同じであり、脳血管疾患などの再発防止は重要。塩分過多は再発要因であるので、出汁を使うなど工夫している。

・家族：本人はここでの生活が単調でつまらないという。わくわくして取り組めるものが提供できないか？高次脳機能障がいの特性だとは理解しているが、寝て過ごしていることが多いのに危機感を覚える。新プログラムに期待したい。

・校長：体育館はどういった形で災害時活用されるのか。

→自立センター職員：多くの患者を受け入れる医療機関となる。災害拠点病院であり避難場所となる。

6 閉会のあいさつ

・障がい者自立センター職員より

頂いた意見を今後の支援に活かし、引き続き地域との連携を深めるべく協力の依頼をし、閉会。